

## 多読レベル 1

---

いいおじいさんとおばあさんがすんでいました。

<sup>ふたり</sup>二人はすずめからおみやげをもらいました。

どんなおみやげをもらったのでしょうか？それはどうしてでしょう。



昔話 2

目的：むかしばなしをよもう。

「舌きりすずめ」

指導者の皆さんへ

📖 ジャボラNPO リライト本の目的

- ①多読による、学習者の自己学習の推進。
- ②外国人が理解しにくい日本人の心情や考え方、日本文化を学んでもらう。

📖 『多読表』を書く

これは、学習者の振り返り記録です。(ポトフォリオ)別紙

- ①何冊読んだのか(多読)記録します。
- ②おもしろさを三段階で評価します。(😊 😐 😞)
- ③感想のひとこと書きができます。

## 多読表

【○ぜんぶよんだ △ぜんぶよまなかった】

【😊おもしろかった 😐まあまあ 😞あまりおもしろくなかった】

レベル	Vol	タイトル	箇所 箇所	○△	感想	😊😊😊
ジャボラ	0	「いれて」				
	0	「あすれもの」				
	1	宝地蔵 <small>たからぢやう</small>				
オリジナル	1	舌切り雀 <small>しづきりすずめ</small>				
	2	明日は遠足 <small>あした せんたく</small>				
	2	お母さんヘンシン ～わたしは、時間を守るわよ！				
	2	稲むらの火 <small>いなむらのひ</small>				
	2	主直五兵衛 <small>しゅちくごべゐ</small>				

むかし、あるところに

おじいさんとおばあさんがいました。

おじいさんは、いつも山やまで仕事しごとをします。

ある日ひのことです。

お昼ひるごはんのことです。

おべんとう箱ばこを開あけました。

おにぎりが、ありません。

そばいちわに一羽のすずめがいます。

そのすずめが、おにぎりを食<sup>た</sup>べました。

おじいさんは、怒<sup>おこ</sup>りませんでした。

やさしいおじいさんは、そのすずめを

家<sup>いえ</sup>へ連<sup>つ</sup>れて帰<sup>かえ</sup>りました。

すずめの名<sup>な</sup>前<sup>まえ</sup>は「ちよんこ」です。



ある日、おばあさんは、たくさん洗濯せんたくをしました。

それから、のりを作つくりました。

のりは、洗濯せんたくにつかいます。

おばあさんは、となりの家いえへ行きました。

家いえへ帰かえったおばあさんは、びっくりしました。

「あつ、のりがない！」

ちよんこが、のりをぜんぶ食たべました。





おばあさんは、怒おこりました。

ちよんこの舌したを、はさみで切りきました。

「いたい、いたい。」

ちよんこは、泣なきました。

そして、どこかへ飛とんで行きいました。

おじいさんが、山<sup>やま</sup>から帰<sup>かえ</sup>りました。

「あれ、ちよんこがない。」

おじいさんは、ちよんこを<sup>さが</sup>探しました。

おじいさんは川<sup>かわ</sup>のほうへ行<sup>い</sup>きました。

川<sup>かわ</sup>で、牛洗<sup>うしあら</sup>いのおじいさんに会<sup>あ</sup>いました。

おじいさんは、牛洗うしあらいのおじいさんに聞ききました。

「牛洗うしあらいのおじいさん

舌したのないすずめを見みましたか。」

「ああ、それなら小舎こやへ行いきなさい。」

と、牛洗うしあらいがいいました。





おじいさんは、小屋を見つめました。

「ちよんこ、ちよんこ」

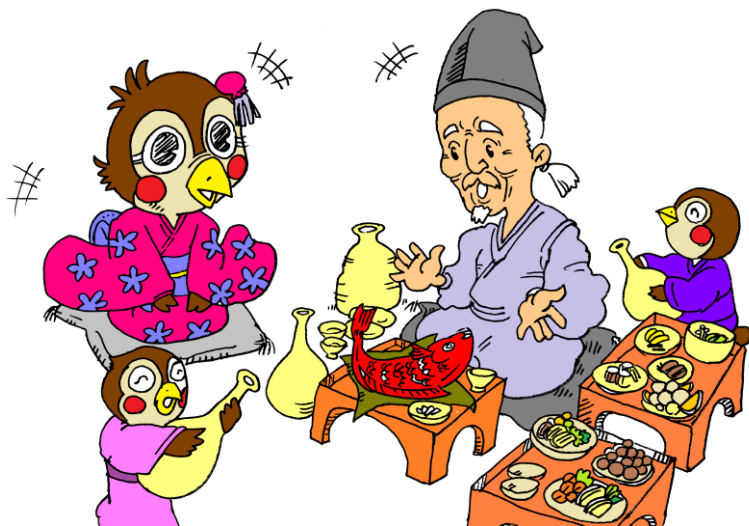
と、名前を呼びました。

それから、小屋の戸を開けました。

ちよんこが、いました。

「あつ、おじいさん いらっしゃい。」

おじいさんは、甘いお酒とごちそうを食べました。



おじいさんは、言いいました。

「ちよんこ、もう、家いえへ帰かえろう。」

すると、ちよんこは言いいました。

「いいえ、帰かえりません。おばあさんが、

こわいですから。」

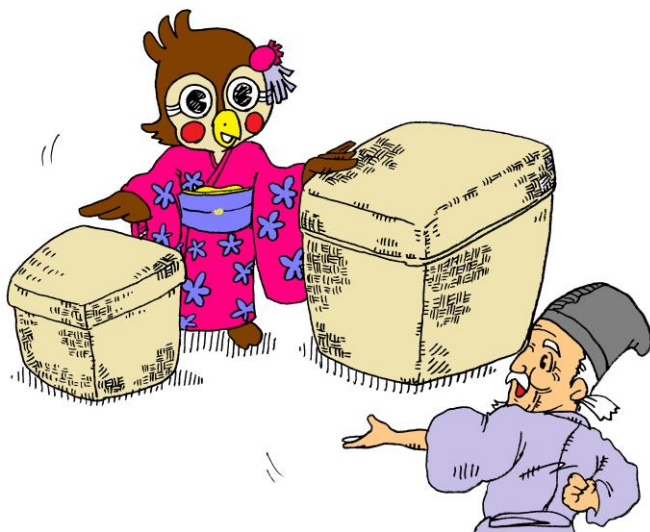
「おじいさん、お土産をどうぞ。」

ちよんこは、おじいさんに

ふたつのつづらを見せました。

「重いつづらがいいですか。」

かるいつづらがいいですか。」



おじいさんは答こたえました。

「わたしは、おじいさんだから、軽かるいのがいい。」

ちよんこは、言いいました。

「ぜったい 家いえで開あけてください。」

おじいさんは、家へ帰りました。

つづらを開けました。

すると、中にはお金や着物などがたくさん。

おばあさんが、おじいさんに言いました。

「わたしも欲しいから、

ちよんこのところへ行きます。」



おばあさんは、ちよんこの小屋を見つけました。

ちよんこは、おばあさんにも、聞きました。

「重いおもつづらがいいですか。

軽いかるつづらがいいですか。」

おばあさんは、

「わたしは、まだ若いから重いおもつづらがいい。」

と、言いました。

「ぜったい、家で開けてください。」

と、ちよんこが言いました。

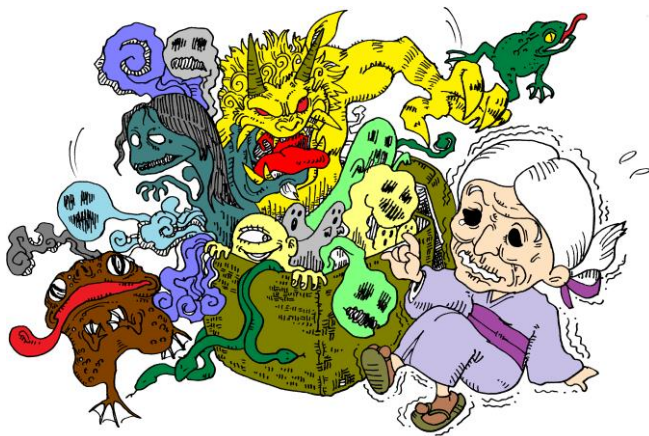


でも、おばあさんはつづらを開けました。<sup>あ</sup>

すると中から、へびやあぶない虫が出てきました。<sup>むし</sup>で

おばあさんは、とてもびっくりしました。

<sup>よくば</sup>  
欲張りはだめじゃん。







【レベルについて ～大人編～】

- ◆本書は、NPO多言語多読監修「にほんご多読ボックス」(大修館書店)のレベルに基づいて作成されています。
- ◆学習者がレベルに応じて、楽にたくさん読めるように、語彙や文法を制限してあります。
- ◆下の表が、「にほんご多読ボックス」のレベルの詳細です。

レベル	語彙	字数/1 話	主な文法項目
0 入門	350	～400	現在形、過去形、疑問詞、～たい など ※基本的に「です・ます体」を使っています。
1 初級前半	350	400 ～1500	現在形、過去形、疑問詞、～たい など ※基本的に「です・ます体」を使っています。
2 初級後半	500	1500 ～3000	辞書形、て形、ない形、た形、連体修飾、 ～と(条件)、～から(理由)、～なる、 ～のだ など
3 初中級	800	2500 ～6000	可能形、命令形、受身形、意向形、～とき、 ～たら・ば・なら、～そう(様態)、 ～よう(推量・比喩)、複合動詞 など
4 中級	1300	5000 ～15000	使役形、使役受身形、～そう(伝聞)、～らしい、 ～はず、～もの、～ようにする／なる、 ことにする／なる など
5 中上級	2000	8000 ～25000	機能語・複合語・慣用表現・敬語など 例) ～につれて、～わけにはいかない、切り開く／ 召し上がる、伺う

©NPO多言語多読については、ホームページをご覧ください。

<http://tadoku.org/> (「NPO多言語多読」でも検索できます。)

挿絵：上ノ内 智之

再話・監修：ジャボラ NPO

